

株主の皆様へ

フジ・メディア・ホールディングス レポート

第71期 報告書

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

INTERVIEW

豊田皓社長が語る

フジ・メディア・ホールディングスの
今後の見通し

TOPICS

三冠奪還へピカる！フジテレビ

特集

- ニュースに即時対応で“テレビカ”アップを目指します
- (株)サンケイビルを連結子会社化
- ▶ CSR通信 vol.11
被災地支援のため「みちのく合衆国」を開催
「ずっとおうえん。プロジェクト」を展開中
- ▶ 株主優待のご紹介



FUJI MEDIA HOLDINGS, INC.

証券コード：4676

メディア・コンテンツ産業のリーディングカンパニーとして

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、認定放送持株会社(株)フジ・メディア・ホールディングスに移行して5期目に入りました。放送の公共的使命と社会的責任を常に認識し、放送番組を中心に、視聴者・利用者の皆様に信頼され広く支持される良質なソフト・コンテンツの制作・提供を目指しております。同時に、グループ内の事業連動や多様な媒体の活用を通じて、ソフト・コンテンツの価値およびそれから生まれる収益を最大化することに努めております。また、グループのガバナンスを強化し、各社の効率的な費用コントロールを徹底し、収益体質を強化してまいりました。

当期の業績は、第1四半期こそ東日本大震災の影響がありました。が、テレビの広告媒体としての価値が再評価され、広告市況も着実

に回復し、主力の放送事業では中核の(株)フジテレビジョンにおいて、放送収入が増収、営業利益も大幅な増益となりました。平成23年4月に完全子会社化した(株)ビーエスフジも大幅に業績を伸ばし、放送事業全体で増収増益となりました。生活情報事業も好調で、連結の業績は、売上高、営業利益ともに前期を上回りました。さらに来期からは、平成24年3月に連結子会社化した(株)サンケイビルをグループの一員とすることで、事業を拡大し収益の安定性を高めてまいります。

今後は、強靱となった収益体質を最大限に活かし、売上の一層の増大、一段の利益拡大を促進してまいります。収益の源泉であるソフト・コンテンツの開発、また成長分野であるデジタル事業だけでなく、新しい事業の開拓にも積極的に取り組み、グループ全体の価値のさらなる向上を図り、株主の皆様のご期待に応えるべく努めてまいります。

なにとぞ、これからも当社および当社グループに対して、倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年6月



代表取締役会長
(Chairman & CEO)

日枝 久

代表取締役社長
(President & COO)

豊田 皓

Contents

01 ごあいさつ

06 特集

02 豊田皓社長
インタビュー

07 CSR通信 Vol.11

03 連結業績
ハイライト

08 会社概況

04 グループ
アウトライン

09 株式情報

05 トピックス

グループ各社の連携を強め、 新たな事業展開と一層の業績拡大を図ります



当期の業績の概要をご説明ください。

主力の放送事業では、(株)フジテレビジョンにおいて第1四半期は震災の影響による広告市況の低迷の影響がありましたが、その後の着実な回復により、タイムおよびスポットがともに前期実績を上回り、放送収入全体として2期連続で増収となりました。イベント事業ではシルク・ドゥ・ソレイユの「ワーザ」が非常に好調に推移し、業績に貢献しました。また、(株)ビーエスフジも大幅な増収増益となりました。

生活情報事業は(株)ディノス、(株)セシルがヒット商品を生み出すとともに両社の共通業務の効率化を進め、増収増益となりました。映像音楽事業は減収ながら、ほぼ前期並みの利益を確保しました。その結果、連結業績としては、前期に続き増収・大幅増益となり、売上高は前期比0.7%

増の5,936億45百万円、営業利益は前期比26.0%増の332億4百万円、当期純利益は前期比512.0%増の612億13百万円となりました。



来期の業績見込みの概要についてご説明ください。

来期の連結業績は、増収増益と予想しております。売上高は6,345億円、営業利益は390億円を見込んでおり、営業利益は平成18年度以来の400億円台も視野に入れた水準としております。また、経常利益は415億円、当期純利益は251億円を見込んでおります。

(株)フジテレビジョンの放送収入は、広告市況の本格的な回復を受け、通期で3年連続の増収を見込んでおります。また、映画事業では「BRAVE HEARTS 海猿」、「踊る大捜査線 THE FINAL 新たなる希望」の公開を予定しており、(株)フジテレビジョン全体として増収増益の見込みとしております。さらに生活情報事業、映像音楽事業ともに増益見込み、新たに加わった都市開発事業は売上高390億円、営業利益44億円を見込んでおり、一段の業績貢献を期待しています。

来期も、強靱な経営体質をもとに、一層の業績拡大を図っていききたいと考えています。

代表取締役社長
(President & COO)

豊田 皓



昨年会社化した(株)ビーエスフジの状況と、新たにグループに加わった(株)サンケイビルについてお聞かせください。

(株)ビーエスフジの当期の業績は、売上高が前期比で28.2%増、営業利益は104.4%増と大幅に伸びております。これはBS放送を楽しんでいただける世帯が増え、広告媒体としての価値が向上したことに加え、看

板番組となった「BSフジLIVE プライムニュース」が高い評価を得るなどソフト・コンテンツを強化してきた結果だと考えています。新たに放送を始めた「F1グランプリ」や「なでしこリーグ」など、これからも人気番組を続々投入していきたいと考えています。今後も、地上波およびCS放送と連動した番組を効果的に活用し、成長を促進してまいります。

(株)サンケイビルは、不動産の賃貸を中心としたビル事業を主力とし、都市開発や商業施設の運営など、都市生活空間を創造・提供する事業を展開しています。(株)サンケイビルが新たにグループに加わることで、事業領域の拡大、収益の安定化だけでなく、様々な事業展開が期待されます。一例として、(株)サンケイビルは4月にお台場オープンした「ダイバーシティ東京」に参画しており、当社グループ一体となってお台場の賑わいを創出していきたいと思っております。さらに、政府の国際戦略総合特区である東京都の「アジアヘッドクォーター特区」において(株)フジテレビジョンなどが提案している「東京DAIBA・MICE/IR 国際戦略総合特区」事業を具体的に進めていく際には、(株)サンケイビルの不動産開発のノウハウを大いに活用していきたいと考えています。

今後も、成長の期待できる分野や、確実に収益の見込める事業を取り込み、また新しい挑戦を続け、当社グループならではの展開を図り、着実に成長していきたいと思っております。

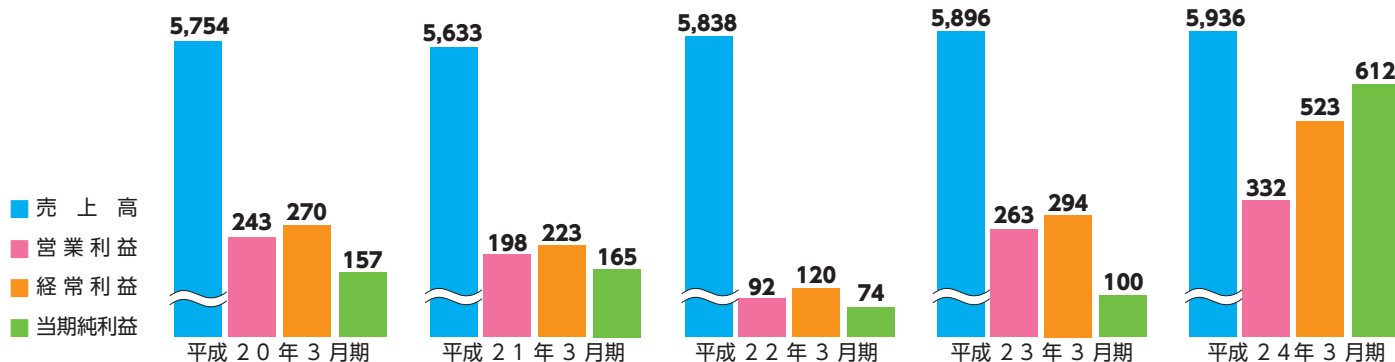
03 連結業績ハイライト

売上高／営業利益／経常利益／当期純利益の推移 (単位：億円)

当社の財務情報はホームページでもご覧いただけます。

[フジ・メディア・ホールディングス](#)

検索



売上高について

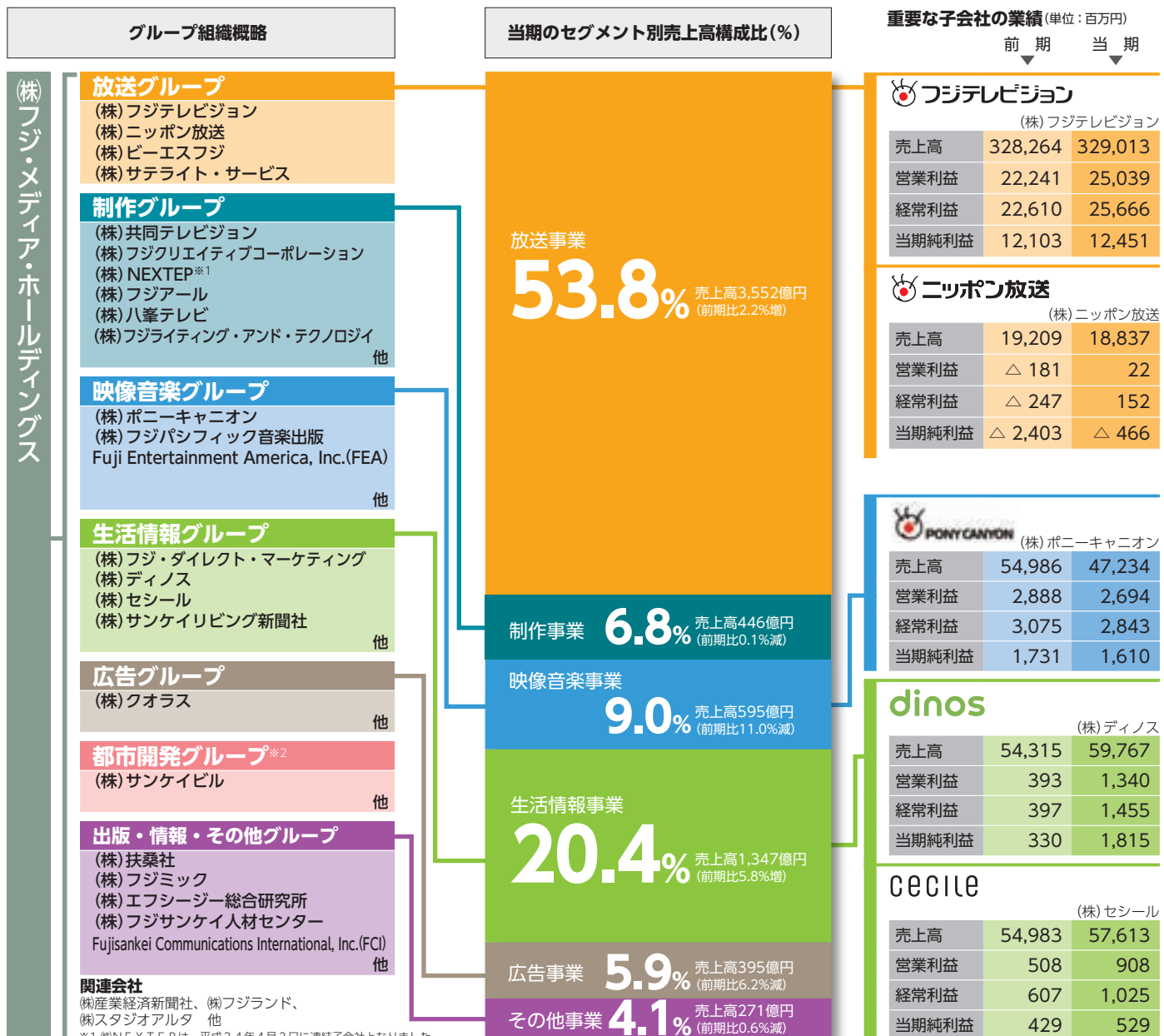
- 放送事業では、(株)フジテレビジョンが第2四半期から回復基調に入り増収、当期より連結子会社となった(株)ビーエスフジも好調に推移
- 生活情報事業では、通販2社の(株)ディノス、(株)セシールとも増収

損益について

- 放送事業では、(株)フジテレビジョンにおいて営業費用全体が前期を下回り増益、(株)ビーエスフジも業績が前期を上回り利益増
- 生活情報事業では、(株)ディノス、(株)セシールが増益

	平成20年3月期	平成21年3月期	平成22年3月期	平成23年3月期	平成24年3月期
業績データ (億円)					
売上高	5,754	5,633	5,838	5,896	5,936
営業利益	243	198	92	263	332
売上高営業利益率(%)	4.2	3.5	1.6	4.5	5.6
経常利益	270	223	120	294	523
当期純利益	157	165	74	100	612
財務データ (億円)					
総資産	6,770	6,835	7,531	7,237	9,535
流動資産	2,535	2,943	3,446	3,451	3,662
固定資産	4,234	3,891	4,085	3,786	5,873
負債	2,209	2,301	2,890	2,621	4,190
流動負債	1,154	1,216	1,558	1,298	2,029
固定負債	1,054	1,085	1,331	1,323	2,160
純資産	4,560	4,533	4,641	4,616	5,345
キャッシュ・フロー (億円)					
営業活動によるキャッシュ・フロー	253	847	186	576	392
投資活動によるキャッシュ・フロー	△414	△367	△308	△1,037	△158
財務活動によるキャッシュ・フロー	△93	△94	253	△333	△53
現金及び現金同等物の残高	801	1,165	1,280	481	727
1株当たりデータ (円)					
1株当たり当期純利益	6,847.60	7,193.40	3,238.69	4,342.98	26,138.30
1株当たり純資産	195,967.51	194,864.16	199,432.99	198,377.85	226,290.92
1株当たり配当金	3,600.00	3,600.00	1,600.00	1,800.00	3,600.00

認定放送持株会社(株)フジ・メディア・ホールディングスのグループは、7グループ24社の中核子会社で構成されています。(株)フジ・メディア・ホールディングスは事業面で緊密な関係を有する関連会社をはじめ、フジサンケイグループ各社と事業・文化活動においてさらに連携を強めてまいります。



※1 (株)NEXTEPは、平成24年4月2日に連結子会社となりました。
 ※2 (株)サンケイビルが平成24年3月8日に連結子会社となったことに伴い都市開発グループを新設しておりますが、当期においては貸借対照表のみ連結しているため、都市開発グループの業績は当期の売上高に含まれておりません。

※このグラフの各売上高は、セグメント間の調整額(671億9,700万円)を含む数字です。

ここからは、主要各社の業績と活動を振り返ってご紹介いたします。



(株)フジテレビジョン

売上高



営業利益



329,013 百万円 **25,039** 百万円
(前期比0.2%増) (前期比12.6%増)

業績のポイント

- 放送収入は、第2四半期に入り回復基調となり、タイム、スポットとも増収
- 放送外収入は、「クワザ」などの催物で増収となったが、映画などは前期に及ばず減収
- 増収に加えて費用の削減により営業利益、経常利益、当期純利益とも増益を達成



三冠奪還へ ピカる！フジテレビ

フジテレビはこの春、家族みんなで見たくなる“ピカリと光る”番組を揃えた大型改編に踏み切りました。いま最も勢いのある「ピカルの定理」をプライムタイムに昇格させ、ピカルブームを巻き起こします。ドラマは新たに土曜日に連ドラ枠を設け、ティーンや若い層にターゲットを絞ったドラマをお届けします。

その他、午後帯に12年ぶりとなる情報番組「知りたがり」が誕生し、生放送枠を拡充することでタイムテーブルの強化を図ります。

番組配信もフジテレビOn Demandを皮切りに、新しい試みであるYouTubeとの共同事業など常に新しいことに続々とチャレンジします。

海外展開については平成23年度「ほこ×たて」「ラッキーセブン」等の番組販売が好調で、共同制作事業も増えています。

フジテレビは、これからも皆様に愛されるテレビ番組やコンテンツを作り続けてまいります。



「ピカルの定理」



土曜ドラマ「未来日記」



平成23年度 邦画実写NO.1獲得！ 配信事業も視界良好！

東日本大震災発生翌日に公開された「SP 革命篇」(興行収入33.3億円)から始まった平成23年度。その後も「アンダルシア 女神の報復」(18.8億円)、「アンフェア the answer」(23.4億円)とスマッシュヒットが続き、三谷幸喜監督脚本の最新作「ステキな金縛り」は、観客動員346万人、興行収入42.8億円と堂々の年間邦画実写NO.1を獲得しました。今年度は「海猿」「踊る大捜査線」「ワンピース」等の大作に加え、個性豊かな作品が並びます。

一方、成長著しいネット配信事業では、自社映画配信(VOD)および配信事業全体の市場拡大を目指しVOD配給会社「マイシアターD.D.」に出資、大幅に売上を伸ばしました。今年度、さらなる飛躍が期待されます。



「クワザ」各地とも大好評で全日程終了！

平成23年度は、シルク・ドゥ・ソレイユ「クワザ」が震災による中断ののちに東京公演を再開、仙台公演は中止となりましたが大阪、名古屋、福岡と各地で大好評をいただき、4地区合計で120万人超の動員数となりました。また、「ベルリンフィルハーモニー管弦楽団」「南西ドイツ放送交響楽団」といった海外オーケストラの招聘も成功。こうした“洋”のコンテンツのみならず、歌舞伎公演「平成中村座」、ドラマ「大奥」舞台版といった“和”の舞台公演も好成績をおさめました。



「ステキな金縛り」
©2011 フジテレビジョン 東宝



「クワザ」
Costumes: Marie-Chantale Vaillancourt © 2010,2011 Fuji Television

ニッポン放送

(株)ニッポン放送

売上高

18,837百万円
(前期比1.9%減)

営業利益

22百万円
(前期比 -%)

- イベント興行収入、物品販売収入は増収
- 主力の放送収入は減収となり、結果、売上高は減収
- 営業費用は一層のコストコントロールに努め、営業黒字を確保

音楽とメッセージで元気と勇気を！被災地にも番組提供

平成23年10月にスタートした「マイ プレイリスト Love for Japan ~kizashi~」。ラジオならではのオリジナルティ豊かなミュージックプログラムを通じて、アーティストや俳優など交替りのパーソナリティが、自身で選曲した「プレイリスト」とリスナーへのメッセージを贈ります。本年4月からは毎週日曜日、23時30分から1時間番組として放送しており、被災地の臨時災害FM局やコミュニティFM局14局にもコンテンツとして提供しています。



PONY CANYON

(株)ポニーキャニオン

売上高

47,234百万円
(前期比14.1%減)

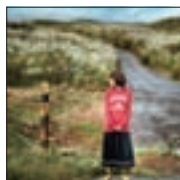
営業利益

2,694百万円
(前期比6.7%減)

- 映画部門で「SP野望篇/革命篇」「THE LAST MESSAGE 海猿」など大作映画DVDが大ヒット
- 音楽部門ではaikoのヒットや、ジャニーズ最年少ユニットSexy Zoneがチャート首位を獲得

映画部門が好調も、アニメ部門減速で減収減益

映画部門は、フジテレビ大型映画のDVD発売が収益に大きく貢献しました。また、映像部門の韓流ドラマも好調で、「ジャイアント」「製パン王キム・タック」などがヒットしました。音楽部門では、大型新人のデビューがありましたが、大型アルバムが不足し収益につながらず、アニメ部門も「花咲くいろは」「けいおん」関連作品が好調でしたが、前期に届かず、全体で減収減益となりました。



aiko「ずっと」

dinos

(株)ディノス

売上高

59,767百万円
(前期比10.0%増)

営業利益

1,340百万円
(前期比240.3%増)

- 防災・節電関連用品、インテリア、家庭用品ともに好調
- ファッション系の売上増、テレビ通販での企画商品のヒットなどにより増収増益

TV・カタログ通販(家具・家庭用品・アパレル)が好調

カタログ通販では、震災後の防災・節電関連用品の需要増や、インテリア・家庭用品カテゴリの伸長、新カタログ「DAMA CASA(ダーマカーサ)」をはじめとするファッション系の好調により売上を伸ばしました。テレビ通販も「ワンピースカーナビ」などオリジナル商品がヒットし、また、特番の放送回数増と地方への番組販売による商機拡大などで増収増益となりました。



DAMA CASA(ダーマカーサ)

cecile

(株)セシール

売上高

57,613百万円
(前期比4.8%増)

営業利益

908百万円
(前期比78.7%増)

- 3Dブラ等、重点戦略商品の販売が好調
- テレビCMを放映する一方、カタログ費等の経費を削減
- 販売費効率を高めた結果、増収増益

セシール×ディノス初の共同ブランド「fillmage(フィラメージュ)」発売

セシールとディノスによる初の共同ブランドとして、30代以上の大人の女性をターゲットにしたランジェリーブランド「fillmage(フィラメージュ)」を平成24年3月1日に発売しました。スタイリッシュでエレガントなテイストに、程よい機能をミックスし、高感度なデイリーユースをコンセプトとしており、3つの異なるカテゴリーから構成されます。2社のオンラインショップおよびカタログで好評発売中です。



新カタログ「フィラメージュ」

その他の各社の状況

BSフジ

(株)ビーエスフジ

10日間連続
特集を2カ国語
語で放送!!



BSフジLIVE プライムニュース

「BSフジLIVE プライムニュース」は昨年10月、「日本創建への10のシナリオ」と題し、TV界では画期的な10日間に渡る連続特集を2カ国語放送(副音声:英語)で行い、放送終了後にダイジェスト版をYouTubeで配信。大きな反響をいただき、本年3月には書籍化が実現しました。4年目の春を迎え、ますますパワーアップする「BSフジLIVE プライムニュース」にご注目ください。

扶桑社

(株)扶桑社



前期比減収ながら大増益!

平成23年度は、東日本大震災の影響を受けながらも、書籍「おうちで簡単! ビストロスマップ」(25万部)、「アニメサザエさん公式大図鑑サザエでございま〜す!」(11万部)、「ピカルの定理マガジン」(10万部・写真)のフジテレビ運動本ほか5冊がベストセラーとなったことに加え、コスト削減により2期連続の黒字となりました。



1

ニュースに即時対応で “テレビカ”アップを目指します

～12年ぶりに午後の情報番組が復活～

フジテレビではこの春、12年ぶりの午後の情報番組として「知りたがり！」がスタートしました。伊藤アナウンサーと住吉美紀キャスターの新MCコンビを中心に、“知っているようで知らない”ニュースの本質を分かりやすく解説するというコンセプトに加え、世の中が動いている午後だからこそ、“今起きていること”を伝える“速報性”にこだわり、機動力を駆使した取材を行っています。

さらに、高橋真麻アナウンサーのコーナー「テレビまあざぐり」では、フジテレビに限らず各局の番組を取り上げて魅力を



語ったり、批評するなど、テレビ界全体を盛り上げるような企画に挑戦しています。

そして、住吉キャスターの特技を生かした、ヨガと天気のコラボ「ヨガ天」は、スタジオを飛び出して屋外からの中継を行うなど、話題となっています。

午後だからこそ、見たくなる！そんな番組作りを目指しています。

2

(株)サンケイビルを連結子会社化！ グループの相乗効果を高め積極的な都市開発を目指します

平成24年3月に、当社は(株)サンケイビルを連結子会社化しました。今後は、(株)サンケイビルを中心として当社グループが一体となって不動産開発に取り組むことで、大きな相乗効果をもたらすと考えています。

(株)サンケイビルは昭和26年の創業以来、東京・大手町の「東京サンケイビル」と大阪・梅田の「ブリーゼタワー」の二大拠点を軸に計16棟のビルを所有し、オフィスや商業施設の賃貸を中心としたビル事業を行っています。平成17年には住宅事業に進出。分譲マンション「ルフォン」を中心ブランドとして展開し、平成23年度は売上高330億円、営業利益53億円を計上しました。



東京サンケイビル

さらに、関連事業として、飲食・建築内装・メンテナンス事業などを推進し、時代の先をとらえた価値の創造にチャレンジしています。

フジテレビなどと共同で取り組んだ「ダイバーシティ東京」をはじめ、今後も大型複合ビル「大手町フィナンシャルシティ（平成24年10月竣工予定）」や、分譲マンション「ルフォン一橋学園」「ルフォン横浜白楽」など、都市に住む人々の幸せを創造するために、「環境との共生」という開発理念のもと、積極的な都市開発を目指します。



ダイバーシティ東京



被災地支援のため 「みちのく合衆国」を開催

～岩手、宮城、福島被災三県の方々を無料で招待～

「復興支援」と「節電」をテーマに開催した「お台場合衆国2011」は、420万人の方にご来場いただきました。また、お台場に来られなかった被災地の方々に、感謝の気持ちとともにイベントそのものをお届けするため、平成24年3月17日(土)18日(日)の2日間、「みちのく合衆国」を宮城県で開催しました。人気バラエティ「ピカルの定理」の公開収録や郷ひろみさんら大物アーティストのライブを行い、来場者は18,659人を記録しました。



「みちのく合衆国」めざましライブ



被災地で息の長い支援活動を！ 「ずっとおうえん。プロジェクト」を展開中

当社グループでは、フジテレビCSR推進プロジェクトチームを中心に被災地支援「こどもおうえんプロジェクト」を実施。未就学児を対象にイベントなどを行いました。平成23年度は、フジテレビアナウンサーのべ36人、FNS系列各局アナウンサーのべ17人が計53ヶ所を訪れ、約5,000人の子ども達の笑顔と出会いました。

本年4月からは、さらに長期的な支援を念頭に「ずっとおうえん。プロジェクト」として活動を展開中。お年寄りなどにも対象を広げ、新しいコミュニティ形成の一助になりたいと考えています。



「みちのく合衆国」にて1年間の活動を報告 15

08 会社概況



会社概要 (平成24年3月31日現在)

会社名 株式会社フジ・メディア・ホールディングス
(FUJI MEDIA HOLDINGS, INC.)

事業内容 認定放送持株会社

設立 昭和32(1957)年11月18日

決算期 3月31日

資本金 1,462億35万円

連結従業員数 6,112名

本社 〒137-8088 東京都港区台場二丁目4番8号

役員 (平成24年6月29日現在)

代表取締役会長	日枝久	取締役	三木明博
代表取締役社長	豊田皓	取締役	石黒大山
取締役副社長	太田英昭	取締役	横田雅文
専務取締役	嘉納修治	取締役	寺崎一雄
常務取締役	増田繁	取締役	清原武彦
取締役	遠藤龍之介	常勤監査役	尾上規喜
取締役	鈴木克明	常勤監査役	瀬田宏
取締役	鈴山千広	監査役	茂木友三郎
取締役	大野亮	監査役	南直哉
取締役	松岡功	監査役	奥島孝康

I N F O R M A T I O N

株主優待のご紹介

株主の皆様の日頃のご支援に感謝して、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された1株以上を保有する株主の皆様を対象に、当社オリジナル手帳を贈呈しております。この手帳は、12月上旬に発送いたします。



本レポート裏表紙の「はちたま見学パスポート」もご利用ください！

ホームページでも情報公開中！



最新のIR情報をはじめ、CSR活動への取り組みなど、当社の様々な情報をご覧いただけます。

www.fujimediahd.co.jp

フジ・メディア・ホールディングス 検索

株式の状況

発行可能株式総数	9,000,000株
発行済株式の総数	2,364,298株
株主数	62,875名

(注)発行済株式の総数には自己株式及び放送法に基づき名義書換を拒否した株式(外国人持株調整株式)が含まれております。

大株主

株主名	持株数(株)	比率(%)
東宝株式会社	185,721	7.86
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	148,563	6.28
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	135,185	5.72
株式会社文化放送	77,920	3.30
株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ	77,000	3.26
関西テレビ放送株式会社	61,461	2.60
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託口・株式会社電通口)	46,500	1.97
株式会社ヤフрут本社	39,690	1.68
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	36,365	1.54
ステート ストリート バンク アンド トラストカンパニー	31,801	1.35

所有者別株式分布状況

株主数

政府及び地方公共団体	0名	(0.0%)
金融機関	101名	(0.2%)
金融商品取引業者	33名	(0.1%)
その他の法人	468名	(0.7%)
外国法人等	403名	(0.6%)
個人その他	61,870名	(98.4%)

株式数

政府及び地方公共団体	0株	(0.0%)
金融機関	621,946株	(26.3%)
金融商品取引業者	71,570株	(3.0%)
その他の法人	725,912株	(30.7%)
外国法人等	468,389株	(19.8%)
個人その他	476,481株	(20.2%)

注1
注2
注3
参照

(注1)「その他の法人」には、証券保管振替機構(失念株式)名義の株式が402株含まれております。

(注2)放送法で定める外国人等の有する議決権数の当社議決権総数に占める割合は19.99%です。

(注3)「個人その他」には、自己株式22,352株及び放送法に基づき名義書換を拒否した株式(外国人持株調整株式)130,100株が含まれております。

(注4)比率は小数第2位を四捨五入しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～3月31日
配当金受領の株主確定日	3月31日及び中間配当を行う場合は9月30日
定時株主総会	6月下旬
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都中央区八重洲1丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
事務取扱場所	東京都中央区八重洲1丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告の方法	産業経済新聞に掲載します。

外国人等の株主名簿への記載・記録の制限等

当社は、放送法で定める外国人等(①日本の国籍を有しない人、②外国政府又はその代表者、③外国の法人又は団体、④「①から③までに掲げる者」により直接に占められる議決権の割合が総務省令で定める割合以上である法人又は団体)の有する議決権について、①から③までに掲げる者により直接に占められる議決権の割合とこれらの者により④に掲げる者を通じて間接に占められる議決権の割合として総務省令で定める割合とを合計した割合が、議決権の20%以上となる場合には、放送法の規定により、認定放送持株会社の認定が取り消されることとなります。そのため、このような状態に至るときには、放送法の規定に基づき、外国人等からの株式の名義書換請求等による株主名簿への記載・記録を拒否し、又は、外国人等の議決権行使を制限することができるかとされています。

お知らせ

●配当金計算書について

1. 配当金を配当金領収証にてお受取りの株主様へ

本年お受取りの配当金について確定申告を行う場合は、配当金領収証に同封いたしました「配当金計算書」が添付書類となります。

注)「配当金計算書」は、租税特別措置法上の「支払通知書」を兼ねた書類ですので、確定申告の際にご利用いただけます。

2. 配当金の受取方法として、口座振込を指定されている株主様へ

同様に確定申告を行う場合は、同封の「配当金計算書」が添付書類となります。

3. 配当金の受取方法として、証券会社にて「株式数比例配分方式」を利用されている株主様へ

確定申告を行う際の添付書類等につきましては、お手数ですがお取引の証券会社にお問合せください。

株式に関するお手続き

●株式に関する各種お手続き(住所変更、配当金受領方法の指定など)は、株主様が口座を開設されている証券会社にてお取扱いております。詳しくは、お取引の証券会社にお問合せください(ただし、郵送物等の発送と返戻に関するご照会と株式事務に関する一般的なお問合せは、株主名簿管理人：後掲のフリーダイヤルにお問合せください)。

●株券電子化実施前に証券保管振替制度を利用されていなかった株主様の株式につきましては、「特別口座」で管理されております。「特別口座」に関する各種お手続き(証券会社の口座への振替、住所変更、配当金受領方法の指定など)は、みずほ信託銀行株式会社本・支店及びみずほインバスターズ証券株式会社本・支店にて受け付けます。なお、「特別口座」の詳細につきましては、下記にお問合せください。

みずほ信託銀行 ☎0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00～17:00)

●払渡し期間経過後の配当金領収証(いわゆる「未払配当金」にかかる領収証)をお持ちの株主様は、配当金領収証に押印のうえ同領収証裏面に記載の送付先にお送りいただくか、次の場所に配当金領収証をお持ちください。

- みずほ信託銀行株式会社本・支店
- 株式会社みずほ銀行本・支店
- みずほインバスターズ証券株式会社本・支店